

2021年度

事務局だより

NO.10 (通算 NO.18)
2021-9-10

一般社団法人

示現会



- 研究会案内
- 示現会館紹介

裏面 ○＜特集＞ 巡回展報告

テレビ、新聞等ではデルタ株という新しい感染が広がっている報道が連日続いています。まだまだ先が見えない状況ではあります。十分な注意が必要と思われます。このような状況ですので、示現会館での研究会は取りやめ、いつものようにリモート研究会になりました。多くの方の参加をお待ちしています。

今年度最終の研究会 リモート研究会になります

今年最後の研究会になります。今までと同じく、どなたでも参加できますが、特に**日展に応募される方**はぜひ参加ください。

研究会 9月19日(日)

写真受付 9月13日(月) 必着



研究会の詳しいことはホームページの「作品研究会」をご覧ください。



挑戦しましょう！

昨年の日展は示現会からも新入選9名を含め大勢の入選者がありました。何度か会場に足を運ぶことがあり、示現会の作品を繰り返し見ることができました。作品はそれぞれの持ち味を十分だとしており、努力の跡が見られ、良い作品と改めて思いました。しかし、会場を回りながら、寂しさを感じました。本来飾られておかしくない作品が今回落選というところで、目にするのができなかつたことです。落選された方は残念な気持ちで、悔しい気持ちは忘れられないと思います。しかし、大事なことは何が悪かったのか、必ず自身の作品の中

悔いの残らない作品を！

に課題を見つけることが大切です。過去に入選の経験のある方は、今回の作品は、入選の作品と何が違って、何が足りなかつたのか、モチーフ・色彩・表現方法・心構えなど冷静に比較し見直すことが必要です。一度や二度の落選はほとんどの人が経験します。20年目で入選という人もいます。ぜひ、落選を一つの糧として新たな気持ちで挑戦してみよう。新しく応募される方も力を存分に発揮して、最後の一筆まで悔いの残らない作品を制作しましょう。研究会は皆さんの力になると

ちょっと一言！

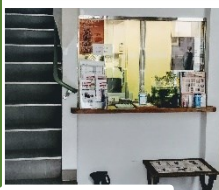
昨年の日展の初入選者はで83名(示現会は9名)平均年齢は68歳、しかも70歳以上の入選は33名、そのうち80歳以上は12名でした

研究会の会場となる示現会館の紹介です

示現会館の紹介



入口正面の事務室。伊集院さんがいます。(9:30~6:00)

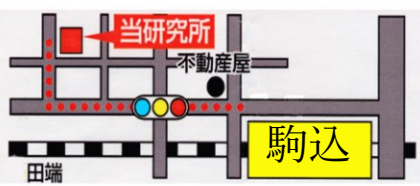


示現会館は山手線の駒込駅から歩いて5分の閑静な住宅街にあります。3階建ての建物は1階に事務室があり、事務員の伊集院さんが勤務しております。(水曜・木曜定休日)

隣接する部屋はアトリエとして使い、研究会の会場にもなります。2階は会議室です。総会や、いろいろな係の作業の場になります。3階は1階と同じようにアトリエです。モデルさんを使つての絵画教室、又リモート研究会の会場に使用しています。

このような時期ですので、アトリエを使って開催される絵画教室は現在一部の教室のみになっておりますが、コロナが落ち着き次第、定期的で開催されることになっております。

詳しくは事務所までお問い合わせください。示現会館は皆様の会館です。お気軽に利用してください。



山手線 新宿から15分、東京駅から18分
「東口」出口から右側に向かい、すぐ左に折れ線路沿いに歩いて約5分
地下鉄南北線も駒込駅があります



1階のアトリエ 大作教室で大きな絵が描けます。



3階のアトリエを使つての絵画教室

特集1

巡回展報告

巡回展開催については、各支部ともコロナ対策には、いろいろと苦勞しているようです。地方によって感染の度合いも違いますが、しっかりと対応していきましょう。

愛知展

第74回示現会名古屋展はコロナウイルス感染症の規制が解除された後、愛知県美術館で開催されました。

今年は本部より佐藤先生が展示指導に日帰りでお越しいただき、なおかつ支部会員の作品指導に時間をかけて丁寧に行っていただき、愛知支部としては新人や1,2回入選の方が多かったため、非常にわかりやすく指導をいただくことができた と大好評でした。また主催の中日新聞社が市民版カットなどで知らせていただいたおかげで、前半は入場者が少なかったが、後半は入場者数が多くなり1日にハガキ50枚売れるようになり、総入場者が2100人以上になりました。

皆さんのご協力で展覧会を無事に終わることができ安堵しております
(愛知支部長 小島兼一)



具象画並ぶ示現会展
名古屋の県美術館
色彩豊かな染めの作品が
並ぶ第五十五回中部染色展
(中部染色作家協会、中日
新聞社主催)と、具象絵画
を追求する第七十四回示現
会名古屋展(示現会、中
日新聞社共催)が十三日、
名古屋・栄の県美術館キヤ
ラリーでそれぞれ始まった。
ともにコロナ禍で昨年は
中止だったため、二年ぶ
りの開催。十八日まで、入
場無料。

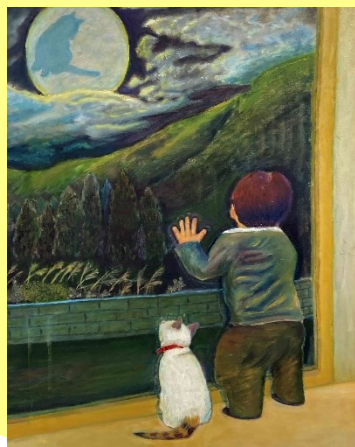


青森展

青森県は比較的コロナの影響は少ないものの、巡回展が開催される青森市は県内で一番多く感染が報告されている地区であり、今年も昨年に引き続きねぶた祭が中止されました。

例年多くの県外客が訪れるものの、今年は静かな巡回展開催となりました。加えて、支部員の体調不良による人員不足のため急遽アルバイトを追加して、なんとか例年並みに開催することができました。来場者は500人足らずでしたが毎回開催を楽しみにしている人も多く、支部員にとって大きな力となりました。

公募展は6回目となり、出品者が固定化している問題点はあるものの作品のレベルが確実に向上しています。公募展が果たす役割を実感しています
(青森県支部長 相馬賢二)



公募展最高賞
「大塚ただし」さん題名は「十五夜」

支部について

支部として、研究会は大切な行事です。支部によっては本部から役員を講師にして実施しているところもあり、また、写生会や、懇親会などを企画し親睦を深めています。ただ、このところの公募展離れや厳しい日常の生活、高齢化等いくつかの原因がありますが、会に所属する人数が減少してきています。

課題はいろいろありますが、支部長を中心として本部も含めて頑張っていきたいと思います。

示現会には15の支部があります。事務局だよりにシリーズで紹介しているようにそれぞれ巡回展を開催しています。巡回展には本部より、役員、委員、そして受賞者の一部、さらに支部長の作品を1年ごと半分に分けて展示作品が送られます。会場によって、本部の作品の展示数が変わります。会場の設営、運営など支部員だけの作業は膨大なものになります。

それぞれの支部はいろいろと独自の活動を行っています。支部展として支部の会員だけの展覧会。また、公募展を実施して賞を設けたりしています。

示現会のいろいろな案内はホームページに掲載されます。ぜひご覧ください。

皆さんからの一言を募集中です。自粛生活のこと、絵のこと、地域の様子など、お知らせください。
メール先 佐藤祐治宛 1941sato@gmail.com なお、示現会のホームページの「メールでのお問い合わせ」でも投稿できます

